

令和2年度滋賀県献血推進計画

本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第10条第4項に基づき、法第3条に定める基本理念および国の令和2年度の献血の推進に関する計画を踏まえ、滋賀県における令和2年度の献血推進に関して定めるものである。

第1 基本方針

（1）安全性の向上

血液製剤は原料である血液を介する感染症等が発生するリスクが完全に否定できないことから、採血事業者および血液製剤製造業者等は、可能な限りの安全対策を講ずる等、安全性の確保に関し不断の努力が必要である。

（2）献血者の確保

県内における献血血液確保目標量を達成するため、県民に対し献血の普及啓発を図る。特に若年層の献血者の確保は喫緊の課題であることから、関係者が連携して効果的に普及啓発を実施することが必要である。また、血液製剤について、医療現場での需要に対する確に供給できる体制を整備する。

（3）適正使用

血液製剤は献血者の善意に支えられた有限で貴重な資源であること、および原料に由来する感染のリスク等について特段の注意を払う必要があることから、医療上は有効であっても安易に第一選択の治療法として用いるべきではなく、他に代替的な手段がなく、真に必要な場合に必要量に限って使用されるべきである。

（4）透明性の確保

血液製剤は善意の献血血液を原料とし、また国内自給を推進する必要があることから、血液事業関係者は血液事業に係る事項について県民の理解と協力が得られるよう、充分な情報公開を行うことが必要である。

第2 献血目標

- ・国が示した必要血液量を基に、近畿ブロック血液センターにより割り振られた献血確保目標量を県内の目標とする。
- ・献血者確保目標数（受付者数）を56,460人、必要血液量を20,802リットルとする。

（1）献血者確保目標数（受付者数）

	全血献血	成分献血	合計
受付者数(人)	44,780	11,680	56,460

（2）献血血液目標量

	全血献血	成分献血			合計
		血小板	血漿	計	
血液量 (リットル)	14,914	2,455	3,433	5,888	20,802

第3 役割

(1) 県

- ・広域的な広報・啓発を通して、広く県民の理解と協力を求めること。
- ・関係機関との調整を行い、円滑な献血推進に努めること。

(2) 市町

- ・市町管内の献血者の計画的な確保に努めること。
- ・地域における献血の意義・必要性の普及啓発に努めること。

(3) 滋賀県赤十字血液センター

- ・献血者確保目標を達成するため、献血受入計画を策定すること。
- ・採血および供給に関し、効率化を図り献血血液の有効利用に努めること。
- ・血液製剤の安全性の確保および安定供給の確保に努めること。
- ・献血者等の保護に努めること。

第4 目標量を確保するために必要な措置

(1) 400mL 献血・成分献血の推進

県、市町および滋賀県赤十字血液センターは、安心な血液製剤の安定供給のため、広く県民の方々に400mL 献血および成分献血を推進し、本計画における血液目標量を確保するとともに、赤血球製剤の適正在庫の維持と血小板等、不足しがちな輸血用血液の効率的な確保を図る。

(2) 若年層献血者の確保

近年、若年層の献血者数が著しく減少しており、若年層の献血者の確保は喫緊の課題である。県、市町および滋賀県赤十字血液センターは、将来にわたって安定的に血液が供給される体制を維持するため、若年層に対して重点的に献血普及啓発事業に取り組む。

特に、高校生、大学生等への啓発を行うことで若年層献血者の確保を図る。

(3) 企業における献血の推進対策

滋賀県赤十字血液センターは、献血に協賛する企業や団体を募り、献血を企業におけるSDGs（持続可能な開発目標）に向けた活動や社会貢献活動のひとつとして位置づけ、「献血サポーター」としてロゴマークを日常の企業活動等において活用してもらえよう周知を図る。

また、県は、献血運動に積極的な企業や団体を献血運動推進協力団体として表彰する。

(4) 複数回献血者の確保

滋賀県赤十字血液センターは、複数回献血者の協力が十分得られるよう、献血に継続的に協力が得られる複数回献血者の組織化とサービスの向上を図る。

(5) 献血者が安心して献血できる環境の整備

滋賀県赤十字血液センターは、献血者の要望を把握し、よりよい献血受入体制の整備に努め、個人情報保護するとともに、国の適切な関与の下で献血による健康被害に対する補償のための措置を実施する。

また、初回献血者に対しては、不安を払拭するため、十分な事前説明を行い、献血者の安全確保を図る。

(6) その他関係者による取組

官公庁、企業、医療関係団体等は、その構成員に対し、ボランティア活動である献血に対し積極的に協力を呼びかけるとともに、献血のための休暇取得を容易にするよう配慮するなど、献血しやすい環境作りを推進し、特に、10代から30代の社員・職員が積極的に献血に協力できるよう職場内で配慮することが望ましい。

第5 目標量を確保するための具体的方策

1 献血に関する普及啓発・広報活動等

(1) 献血推進キャンペーンの実施

ア 愛の血液助け合い運動

期間：7月1日～7月31日

県、市町および滋賀県赤十字血液センターは、県内の医療機関で必要とされる輸血用血液を、県民の方々の善意に基づく献血によって確保するため、広く県民各層の間に献血に関する理解と協力を求めるとともに、特に、成分献血と400mL献血への協力と、医療機関における血液製剤の適正使用についての協力を求め、一層の献血運動の推進を図ることを目的とする。

また、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律の周知を図ることもあわせて目的とする。

イ はたちの献血キャンペーン

期間：1月1日～2月28日

県、市町および滋賀県赤十字血液センターは、献血者が減少しがちな冬期において安全な血液製剤を安定的に確保するため、新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として広く県民各層に対して献血に関する理解と協力を求めるとともに、特に成分献血、400mL献血の継続的な推進を図ることを目的として「はたちの献血」キャンペーンを実施する。

(2) 献血活動功労者の表彰

ア 厚生労働大臣表彰状・感謝状

県は、これまで献血運動の推進に関して、特に功績顕著な団体(会社、事業所、地域組織、学校等)および個人を、厚生労働大臣表彰状・感謝状の贈呈候補者として推薦する。

イ 滋賀県知事感謝状

県は、献血運動の推進に積極的に協力し、他の模範となる実績を示した会社、事業所、地域組織、学校、ボランティア団体等(以下「団体」という。)および個人に対し滋賀県知事感謝状を贈呈する。

(3) 献血に関する広報活動

県は、報道機関等への資料提供、県ホームページへの掲載等より、広く県民の方々に献血思想の普及を図る。

また、県および滋賀県赤十字血液センターは、献血会場案内を定期的にホームページに掲載することで、献血場所の周知を図る。

(4) 複数回献血の推進

滋賀県赤十字血液センターは、複数回献血者クラブ「ラブラッド」の体制を強化し、

加入者の確保に努め、複数回献血者クラブ会員に対するサービスの向上を図る。

また、30代以下の若年層については、SNSを活用し、献血に関する情報を発信する。

(5) 献血ルームの普及啓発

県および滋賀県赤十字血液センターは、草津駅前に設置されているびわ湖草津献血ルームが若年層の献血や地域の献血の拠点となるよう普及啓発を図る。

2 若年層献血の推進

(1) 学生献血推進イベント等の実施

県は、滋賀県学生献血推進協議会を中心に、夏季（サマー献血）、秋季（ハロウィン献血）および冬季（クリスマス献血）において啓発イベントを実施する。また、若年層に向けて、同世代の視点で献血をアピールするパンフレットを作成し、高校生や大学生等に配布する。

(2) 滋賀県献血推進ポスターコンクールの実施

県は、若年層の献血意識の向上を図るため、県内在住・通学の中学生と高校生を対象に滋賀県献血推進ポスターコンクールを実施する。入賞者には滋賀県知事より表彰状を贈呈し、県内のショッピングセンター等で入賞作品の展示会を実施する。

(3) 高校生向け献血学習の実施

県は県教育委員会等と連携して、若年層の献血に対する意識の向上を目指すため、献血のできる年齢に達する時期に献血の重要性および献血に関する知識を広めることを目的に、県内高等学校の授業の一環として献血学習を実施するよう働きかける。

また、滋賀県赤十字血液センターが実施する「献血セミナー」や血液センター等での体験学習を積極的に活用してもらえるよう学校等に情報提供を行う。

(4) 高校献血の実施

高校生のうちに献血を経験することはその後の献血の動機付けになるとの調査結果があることから、県は県教育委員会等と連携して、県内高等学校に対し、学校における献血（高校献血）の実施を依頼する。

(5) 大学生等への普及啓発の実施

県および滋賀県赤十字血液センターは、大学生や専門学校生の献血者の確保を図るため、大学等に献血への協力を依頼する。また、20代を対象として献血普及啓発事業を実施する。

3 献血推進組織等との連携

(1) 滋賀県献血推進協議会の開催

県は、献血推進協議会を設置し定期的を開催し、献血事業に関わる組織と連携し、献血推進計画の策定、献血に関する教育および啓発、民間の献血組織の育成を行う。

(2) 市町献血推進協議会の設置・開催

市町は、献血推進協議会またはこれと同様の協議会を設置し、献血の普及啓発について検討し、献血を推進する。

(3) 献血推進担当者会議の開催

県は、住民に必要な情報提供を的確に行うことができる体制を確保するため、各市町および各保健所の担当者会議を開催する。

第6 その他献血の推進に関する重要事項

1 献血の推進に際し、配慮すべき事項

(1) 血液検査による健康管理サービスの充実

滋賀県赤十字血液センターは、献血者の健康管理に資する検査を行い、献血者が希望する場合はその結果を通知する。

また、血色素量測定により献血が出来なかった献血申込者に対して健康アドバイスを実施し、献血者の増加を図る。

(2) 血液製剤の安全性の確保のための取組み

滋賀県赤十字血液センターは、H I V等の感染症の検査を目的とした献血を行わないよう広報手段を用いて、県民に周知する。

(3) 献血者の利便性の向上

滋賀県赤十字血液センターは、安全性に配慮しつつ、効率的に採血を行うため、献血ルームの運営や、地域の実情に応じた移動採血車による計画的採血等、献血者の利便性および安全性に配慮した献血の実施に努める。

県および市町は滋賀県赤十字血液センターと十分協議し、様々な手段を用いて情報提供を行い、献血の受入に協力する。

2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応

県と滋賀県赤十字血液センターは、赤血球製剤等の在庫水準を常時把握し、在庫が不足する場合または不足が予測される場合には、国および採血事業者が策定した対応マニュアルに基づき早急に所要の対策を講ずる。

3 災害時等における献血の確保等

県および市町は、災害時等における献血が確保されるよう、滋賀県赤十字血液センターと連携して必要とされる献血量を把握した上で、需要に見合った献血の確保を行う。

また、災害時において、製造販売業者等関係者と連携し、献血により得られた血液が円滑に現場に供給されるよう措置を講ずる。

滋賀県赤十字血液センターは、災害時における献血受入体制を構築し、広域的な需給調整等の手順を定め、国、県および市町と連携して対応できるよう備えることにより、災害時における献血の確保に努める。

令和2年度若年層献血推進アクションプラン

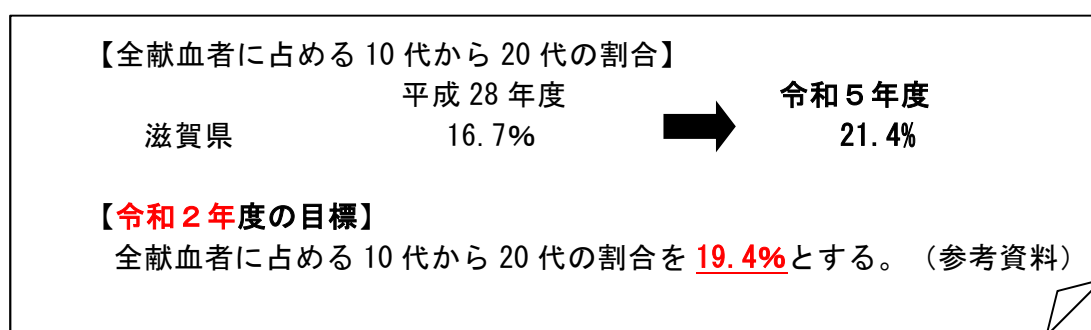
はじめに

全国的に若年層の献血率が減少する中、平成28年度の本県の10代から20代の献血者の構成比率は全国45位となっており、若年層の献血者数の向上は喫緊の課題となっている。

若年層の献血者の構成比率を向上させるには、関係者が連携し、効果的に普及啓発を実施する必要があることから、「令和2年度若年層献血推進アクションプラン」を作成し、若年層献血推進のための実行計画とする。

令和2年度目標

令和5年度までに、10代から20代の献血者の構成比率を、平成28年度の全国平均値21.4%とすることを目標とする。



1 学生献血推進イベント等の実施

(1) 学生による街頭献血キャンペーンの実施

主体：滋賀県学生献血推進協議会

内容：滋賀県学生献血推進協議会が中心となり、夏季（サマー献血）、秋季（ハロウィン献血）および冬季（クリスマス献血）において啓発イベントを実施する。

時期：令和2年4月～

(2) 学生による若年層向けパンフレットの製作

主体：滋賀県学生献血推進協議会

内容：学生の目線で同世代に対して献血をアピールする内容のパンフレットを作成し、高校生・大学生等に配布する。

時期：令和2年4月～

2 滋賀県献血推進ポスターコンクールの実施

滋賀県献血推進ポスターコンクールの実施

主体：滋賀県

協力：日本赤十字社滋賀県支部、滋賀県赤十字血液センター

内容：県内在住・通学の中学生と高校生を対象に滋賀県献血推進ポスターコンクールを実施する。

進め方：県内の中学3年生と高校1年生に対してチラシ兼募集要項を配布
(令和2年6月頃)
応募作品の審査会開催(令和2年10月頃)
滋賀県知事表彰式の開催(令和2年12月頃)
入賞作品展示会の実施(令和3年1月～2月頃)

(参考) 令和元年度滋賀県献血推進ポスターコンクール

応募状況

募集期間：令和元年7月1日～9月13日

募集方法：滋賀県ホームページに掲載、県内中学校・高等学校に募集要項を配布(チラシ)

応募状況：県内中・高等学校31校より350作品の応募、8作品入賞表彰式の開催

日時：令和元年12月26日 11時

場所：滋賀県庁 北新館3階中会議室

出席者：被表彰者、滋賀県副知事

入賞作品の展示

アルプラザ草津 令和2年2月14日～2月26日

アルプラザ近江八幡 令和2年3月5日～3月17日

3 高校生向け献血学習事業の実施

(1) 県内各高校へ献血学習実施依頼文を发出

主体：滋賀県(教育委員会事務局と連名で发出)

内容：献血学習の実施依頼(令和元年度末)

献血学習アンケート調査の実施(令和2年度当初)

(2) 献血セミナーの実施

主体：滋賀県赤十字血液センター、滋賀県

内容：①高校へ献血学習を依頼する際に、滋賀県赤十字血液センターが実施する献血セミナーについて案内し、実施を呼びかける。

②高等学校等から、県薬務感染症対策課に薬物乱用防止教室等の講演依頼があった際には、献血セミナーの同時開催を依頼する。

時期：令和2年4月～(随時)

(参考) 令和元年度献血セミナーの一例

県内14高校において、献血セミナーを開催した。

(3) 愛の血液助け合い運動－16歳からの献血－の実施

主体：滋賀県、滋賀県献血協会

内容：①「愛の血液助け合い運動」に合わせて、10代を対象に、献血をすると記念品が進呈されるキャンペーンを実施する。キャンペーンチラシを県内の高校に通うすべての高校生に配布する。

②滋賀県大津合同庁舎に献血推進横断幕を掲示する。

時期：令和元年7月

(4) 高校生献血キャンペーンの実施

主体：滋賀県献血協会

内容：高校生に複数回の献血をしてもらうよう、夏のキャンペーンと同様に、献血者が減少しがちな秋季から冬季にかけて、献血をすると記念品が進呈されるキャンペーンを実施する。キャンペーンチラシの裏面には、献血に関する基礎知識等を掲載し、まだ献血学習を行っていない学校に対して、献血学習の実施を依頼する。

時期：令和2年12月～令和3年3月

(参考) 令和元年度実施状況

滋賀県内の献血バスまたは献血ルームで献血をした高校生先着1,000名に、記念品（モバイルバッテリー）を贈呈した。また、滋賀県内の各高校、各市町、保健所にキャンペーンポスターを送付し、掲示してもらうよう依頼した。

令和元年12月～令和2年2月 高校生献血者数 1,033人（前年同月…1,002人）

4 高校献血の実施

(1) 高校献血の実施依頼

主体：滋賀県、滋賀県赤十字血液センター

内容：①高校献血の実施について各高校へ文書で依頼する。

②アンケート結果において献血学習に積極的な高校に連絡を取り、直接訪問して、高校献血の実施を依頼する。

時期：令和2年4月～

(参考) 令和元年度高校献血実施校15校（予定18校（うち3校が中止））

(今年度新規献血実施予定校)

令和元年 12月20日 県立守山北高校

令和2年 2月28日 県立能登川高校（中止決定）

3月10日 近江兄弟社高校（中止決定）

3月23日 県立高島高校（中止決定）

令和2年 3月 文書で県内各高等学校に高校献血実施の依頼予定

(2) 関係者への献血協力依頼

主体：滋賀県

内容：公立高等学校PTA連合会・高等学校長協会・養護教諭研修会において献血の現状と高校献血について説明し、実施を依頼する。

時期：令和2年6月～

(参考) 令和元年度高校関係者への協力依頼

令和元年6月6日 滋賀県高等学校長会

令和元年6月7日 滋賀県公立高等学校PTA連合会総会

5 大学生等への普及啓発の実施

(1) 県内大学等への献血協力依頼

主体：滋賀県赤十字血液センター、滋賀県

内容：県と滋賀県赤十字血液センターが一体となり、県内大学等を訪問するなどして、献血に対する協力を更に依頼していく。

時期：令和2年4月～（随時）

(2) 「はたちの献血キャンペーン」の実施

主体：滋賀県

協力：滋賀県赤十字血液センター

内容：①はたちの献血キャンペーンに合わせて、10代から20代の方を対象に、献血をすると記念品が進呈されるキャンペーンを実施する。キャンペーン用啓発物品は、市町の成人式会場や県内大学・専修学校等において配布する。

②滋賀県大津合同庁舎に献血推進横断幕を掲示する。

時期：令和3年1月～2月

(参考) 令和元年度はたちの献血キャンペーン

○10代から20代の方を対象に献血をすると記念品が進呈されるキャンペーンを実施し、キャンペーン周知用啓発物品を各市町が実施する成人式や大学・専修学校等で配布した。

○滋賀県大津合同庁舎に献血推進横断幕を掲示した。

掲示期間 令和2年1月6日～1月31日

6 関係団体によるポスター等の掲示

- (1) “まかせてよ！もっと身近に薬剤師”事業展開の一環として、(一社)滋賀県薬剤師会会員薬局において、厚生労働省や日本赤十字社が作成したキャンペーン用ポスターを掲示する。また学校薬剤師による担当校保健委員会での献血推進協力依頼を行う。

7月：「愛の血液助け合い運動」月間期間中

1月から2月：「はたちの献血キャンペーン」月間期間中

(参考)

令和元年1月から2月の間、滋賀県薬剤師会の協力を得て会員550店舗において、令和元年「はたちの献血キャンペーン」用ポスターを掲示。